

東京 2020 オリンピック聖火リレー

東京 2020 オリンピック聖火リレーコンセプト : Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。

Hope Lights Our Way

— 希望の道を、つなごう。 —

東京2020オリンピック 聖火リレーコンセプト



オリンピック聖火は、平和や希望の象徴とされています。ギリシャの古代オリンピアの太陽光から採火されたオリンピック聖火は、オリンピック開催国において、オリンピックムーブメントの最も力強い象徴となり、聖火ランナーが、リレーによりつないでいきます。

東京 2020 聖火リレーのコンセプトは、Hope Lights Our Way（英語） / 希望の道を、つなごう（日本語）です。支えあい、認め合い、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らし出します。

オリンピック聖火があなたの街にも。2020年3月26日に福島県を出発し、全国を回ります！

東京 2020 オリンピック聖火リレーは、聖火の光が多くのの人々にとって希望の道を照らしたすものとして。オリンピック聖火は 2020 年 3 月 26 日に福島県を出発し、以降全国を回り、喜びや情熱を伝えていきます。震災から 10 年目の被災地も訪れることになり、新しい時代の希望のオリンピック聖火リレーとして、復興に力を尽くされている方々にも、元気や力を届けてまいります。また、震災当時世界中から寄せられた支援や励ましに対し、震災から 10 年目の日本の姿を感謝の気持ちとともに発信し、困難を乗り越える人々の力・不屈の精神を、しっかりと伝えていきます。



©2012 / IOC



©2012 / IOC

ルート選定の基本的な考え方

聖火リレーのルートは、基本的な考え方として、「日本全国 47 都道府県を回り、できるだけ多くの人々が見に行くことができるルート」、「安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所」を原則として、さらには、「地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所」、「聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所」に基づき今後決定してまいります。

※各都道府県内のルート案は、ルート選定の基本的な考え方を踏まえ、上記順番と日程を基に、各都道府県の実行委員会において選定を進めていただき、2019 年に発表される予定です。

復興の火

復興オリンピックの観点から、東京オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、被災 3 県（岩手、宮城、福島）で順次展示する予定です。

ランナー選定の基本的な考え方

東京 2020 オリンピック聖火リレーのランナーは、すべての人々を対象としつつ、下記の考え方に基づき、各都道府県やスポンサーが選考した候補者を含むすべてのランナーを組織委員会がとりまとめ、IOC の了解を得て決定いたします。

- ・国籍、障がいの有無、性別、年齢のバランスに配慮しながら、幅広い分野から選定し、開かれたリレーとする
- ・地域で活動している人を中心に選定

聖火リレー検討委員会での 3 つの視点

- ・日々の生活の中でも、家族、仲間、同僚などお互い支え合って、あきらめずにどんな困難にも立ち向かう人（復興・不屈の精神（支えあう心））
- ・様々な人々との違いを認めあいながら新たなものに取り組んでいる人（違いを認めあう包容力（認めあう心））
- ・ランナーとして走ることで、地域の一体感を高め合うことができる人（祝祭による一体感（高めあう心））

※具体のランナー選考基準は、上記考え方を踏まえ、ランナーの人数、ルート等が明らかになる 2019 年に選考方法とともに決定する予定です。本ウェブサイトでも随時お知らせしてまいります。

ポイントは4つ！

オリンピック聖火リレーの主役は、聖火ランナーだけではありません。沿道で見守る人、携わるスタッフなどすべての人々の東京 2020 大会への期待と興奮を載せて開会式会場となる新国立競技場へと運ばれる聖火。

皆さまの思いを最大化すべく、オリンピック聖火リレーを次の 4 つのポイントから盛り上げます。

- ・日本全国を盛り上げるリレー
- ・地域の特色を活かしたリレー
- ・誰もが参加できるリレー
- ・持続可能／安全・確実なリレー



オリンピック聖火リレーとは

ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。

オリンピックのシンボルである聖火を掲げることにより、平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体現し、開催国全体にオリンピックを広め、きたるオリンピックへの関心と期待を呼び起こす役目を持っています。

近代オリンピックでは、パリ 1924 大会まで聖火はありませんでした。

アムステルダム 1928 大会の際、スタジアムの外に塔を設置し、そこに火を灯し続けるという案が採用されたことが契機となり、現在のような聖火が誕生しました。

聖火は大会の数ヶ月前に古代オリンピックの聖地であるオリンピアの遺跡であるヘラ神殿前で採火されます。その後、多くの人によって開催地まで運ばれ、開会式当日に、最終ランナーによってメインスタジアムの聖火台に点火され、大会が終わるまで灯し続けられます。

※ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック組織委員会 web ページより抜粋

※ ルート日程等詳細は下記 URL を参照

<https://tokyo2020.org/jp/games/torch/>